



鳥居が立っていた華表神社参道 (1975年)



探訪マップ

長尾街道と 五箇荘

〜地域を歩き・地域を知ろう〜



長尾街道筋 (船堂町 金鳳別荘前付近)

長尾街道とは

『日本書紀』推古天皇21年(613)に「難波より京に至る大道を置く」と書かれた日本最古の国道が、難波宮朱雀門から一直線の難波大道と、直角に交わる大津道(長尾街道)と丹比道(竹内街道)だとされています。2つの街道は二上山の北と南で峠を下り、竹内で合流、長尾を通して飛鳥の都に至ります。大陸からの着飾った使者の行列が通ったことでしょう。

難波大道のあとは堺と松原の境界で見つかり、幅17mもあったとわかっています。難波大道がすたれた後も、2つの街道は堺と河内・大和の生活・経済をつなぎ続けました。奈良に都が移ってからは、国府(藤井寺)から北へ進み、竜田道を通して堺の魚を運ぶ長尾街道が栄えました。

奈良と堺のつながりは深く、明治13年(1880)まで、奈良県や河内一帯を含む堺県となり、県庁は現在堺区の本願寺堺別院に置かれました。長尾街道が大きな役割を果たしたことでしょう。



大正時代には人力車が走り、昭和の初めには布忍(松原)まで堺バスが走るようになりました。そのころも堺の人々は、3月25日を、「はるごと」とよび、仕事を休んで、藤井寺の道明寺天満宮へ歩いてお参りしていました。堺から12km、朝早く長尾街道を通り、夕方、瓢箪に入れたお酒をのみながら、ごきげんで帰り、五箇荘の子どもたちに、おみやげのかんざしを配ってくれたそうです。

船堂 歩いて まだ 蔵之前
あし 大豆塚 できました
ちょうちん 提灯 持って 向井村

※この向井村は今の田出井町あたり。

時代と共にルートが変わっていますが、昔のおもかげを残した街道をたどることができます。府道堺大和高田線がほぼ並行して走っています。

五箇荘のあゆみ

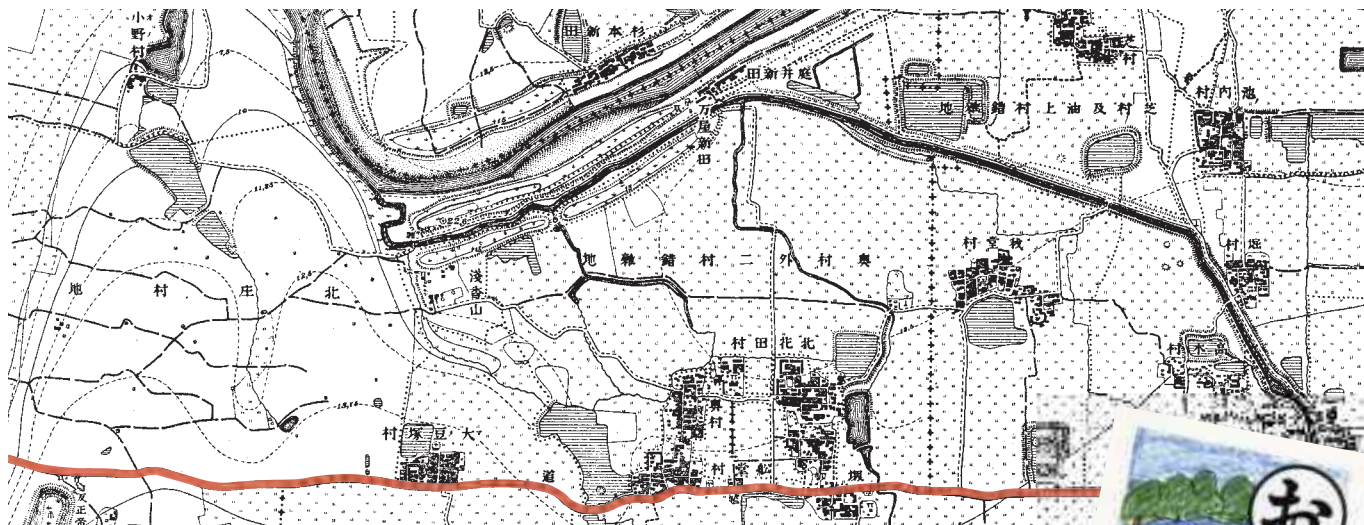
北花田駅前イオンを建てる時に見つかった東浅香山遺跡は、2000年前の弥生時代人の狩場だったことがわかっています。

この地域は、古代摂津国住吉郡に属し、奈良時代の「条里制」の長方形の田畑の跡が確認できるなど古くから開発された土地です。

^{ごかしよう}
「五箇荘」の名は、15世紀後半の記録にあらわれます。宝永元年（1704）に大和川が付けかえられるまで、五箇荘は我孫子や杉本、庭井まで含みました。^{ごし}郷土として北花田一帯を支配した澤池氏は、堺港を拠点にした遣明貿易に出資して巨額の利益を得たと言われています。織田信長は、今井宗久を五箇荘の代官とし、我孫子に鉄砲工場をつくりました。

大和川の付けかえで、五箇荘は分断され、^{おおよさみ}氏神の大依羅神社からも離れてしまいました。

大和川は、村の東北にあった^{よさみいけ}依網池のまん中に付けかえられ、池の南北に新田が拓かれました。現在の常磐町3丁が新田跡です。西除川も付けかえられて浅香で大和川と合流しています。



明治18年金田村地図より五箇荘周辺

明治22年（1889）、大鳥郡五箇荘村（後に泉北郡）がうまれました。奥・北花田・^{まめづか}船堂・^{よろずや}大豆塚・庭井新田・万屋新田・花田新田・浅香山の集落のまわりに田畑が広がり、水と緑の美しい農村地帯だったことでしょう。

昭和7年（1932）に^{きへいれんたい}騎兵連隊が移転して以後、現在の長尾中学や金岡公園などの

^{しちやうたい}場所に、輜重隊や陸軍病院などが集中しました。働きざかりの男性が戦地に送られ、残った家族も苦労が続きました。

村は、昭和13年（1938）堺市に合併しました。蔵之前を含む南河内郡北八下村は昭和32年に堺市に合併しました。

府営住宅・公団住宅・新日鉄花田社宅など戦後の開発・人口増で、現在は4小学校区（創立1873年五箇荘・1958年東浅香山・1977年五箇荘東・1988年新浅香山）となっています。昭和62年（1987）に地下鉄が開通し、まちは大きくかわってきました。



地域の文化財

かひょうじんじゃ 華表神社 宮本町57

かひょうじんじゃ
華表神社は、北花田郷七村の惣社で、誉田別命・素盞鳴命・宇賀之
みたまのみこと まつ
御魂命の三神を祀っています。

神社に伝えられている縁起には、じんぐうこうごう
神功皇后をはじめ、空海や後醍醐
てんのう
天皇などが諸神を迎えまつ
祀ったという伝承が記されており、古い由緒がう
かがえます。

織田信長に領地を没収され、慶長の兵火でもかなりの被害を受けまし
た。かつて、じんぐうじ
神宮寺(神社に付属する寺院)であったうほうざん
雨宝山金龍密寺に
しいん
は七つの子院がありましたが、江戸時代には無量寿院を残して廃絶し
たようです。



すむちそねじんじゃ 須牟地曾根神社 蔵前町3-10-3



蔵前村は、もと河内国八上郡南花田村の枝郷で、「蔵
やかみぐん
すむちそねのみこと かっ
之前」とも呼ばれていました。現在、須牟地曾根命、勝
てだいまょうじん びしゃもんでん
手大明神、毘沙門天を祀っている須牟地曾根神社は、
蔵前村の産土神であり、平安時代に編纂された『延喜
式』神名帳に記載されている摂津国住吉郡の須牟地曾
根神社を当社に比定する説もあります。

須牟地曾根命は、住吉大神の子神であり、神功皇后6年に神社が創建されたという伝
承も、長尾街道にほど近いこの地が、住吉津から上陸した人や物の交流に関わる場所
であったことを推測させます。江戸時代は勝手大明神として信仰を集め、明治28年(1895)
に焼失、金岡神社に合祀されましたが、その後氏子の方々によって再建されました。



あさかやまいなりじんじゃ 浅香山稻荷神社 東浅香山町2-9



古代、この辺りは遠里小野から続く入江でした。「浅香」の名は、この入江に香
木が流れ着いたことが由来だとされています。

浅香山稻荷神社は社伝によれば、推古天
皇の時代(590年頃)に創始されたと伝えら
れています。宝永元年(1704)大和川の付け
ふしんぶぎょう
替え工事の完成後に、普請奉行の一人だっ
おおくぼおすみのかみ
た大久保大隅守や川口奉行が寄進した燈籠
ちようずばち
や手水鉢が現在も遺されています。



手水鉢



燈籠



堺市指定有形文化財 愛染院本堂

愛染院はもと池浦観音寺とよばれ、聖武天皇の命で奈良時代の高僧行基が建立したと伝えられています。

戦国時代、戦乱で焼失するなど荒廃した時期がありましたが、新堀、蔵前、南花田、北花田、船堂といった近隣の村々や、堺の町の人々、幕府の重臣だった秋元氏など多くの人々の力で再興されました。



堺市指定有形文化財 観音菩薩立像



寺伝によれば、享保年間(1716~35)に恵然講師を開基として創立されたと伝えられています。以降、看坊道場として留守職が置かれていました。

が、明治2年(1869)に古堂を買い取り移築し、明治11年(1878)に自庵として許可されました。本尊の阿弥陀如来立像は、浄土真宗の木仏として江戸時代に制作され、聖徳太子画像は宝暦13年(1763)に「摂州住吉郡豆塚村／惣道場／西願寺什物」として制作されたことがわかります。



阿弥陀如来立像



聖徳太子画像



融通念佛宗中興の祖、法明上人(1279~1349)が、元享3年(1323)に地藏菩薩を安置したのが始まりと伝えられています。

お寺に伝えられている仏画「十一尊天得如来画像」が寛文2年(1662)の寄進、本尊地藏三尊像は宝永2年(1705)に制作されていることから、この頃までには、寺観が整えられていたものと思われる。

本堂前にある大きな石のお地藏さんは、弘化3年(1846)良訓上人の代に制作され、その大きさや優しく礼拝者を迎える姿から、地元の人々に親しまれています。



地藏三尊像

しょうかくじ
正覚寺

船堂町1-14-23 浄土真宗本願寺派



正覚寺は現在、浄土真宗本願寺派の寺院で、もとは真宗興正寺派に属していましたが、古い歴史は不詳です。現在の本堂は平成元年の再建で、それ以前の本堂は寛政12年(1800)の建立でした。

本尊の阿弥陀如来立像あみだによらいつぞうは天和3年(1683)、親鸞聖人・聖徳太子・七高僧・良如上人の絵像は宝永7年

(1710)に本願寺より認可されたものです。この本尊の阿弥陀如来立像には、明治24年(1891)に岡倉天心おかくらてんしん(1862~1913)らが中心となっておこなった宝物調査の際の「鑑査状かんさじょう」が添えられています。また、客仏の薬師如来坐像は、華表神社の神宮寺であった金龍密寺に祀られていた本地仏の可能性がります。

正覚寺は恵眞・恵明えしん えみょう りゅうじょう(流情)という学僧を江戸末期から明治にかけて輩出しているため、多くの古文書類が伝わり、蓮如上人おみょうごうご真筆の御名号も4幅所蔵されています。



阿弥陀如来立像

まんだらじ
曼陀羅寺

奥本町2-122 融通念佛宗



創建にかかわる詳しい記録はありませんが、当村の旧家、三好家の古文書によると寛文6年(1666)にはすでに奥村の檀那寺だんなでらとして護持されていました。

本尊の阿弥陀如来坐像あみだによらいざぞうは比較的角張った輪郭と小づくりの目鼻立ちで、江戸時代の特徴をあらわしています。

平成元年に本堂、平成16年くりに庫裡が檀家各位の法助により新築され、今日の景観を保っています。



本尊 阿弥陀如来坐像

しんねんじ
心念寺

新堀町2-38 融通念佛宗



創建年代など詳しいことはわかりませんが、だいにんぶつじよんじゅうごだいきろくならびに延宝5年(1677)の「大念仏寺四十五代記録并末寺帳まつじちょう」によれば「真念寺」と記載され、もと浄土宗であったと伝えられています。

心念寺に所蔵されている釈迦の入滅の様子を描いた仏涅槃図は、描き方や絵具の様子から室町時代まで遡る作品と考えられ、寺の前身となる中世寺院の存在が考えられます。



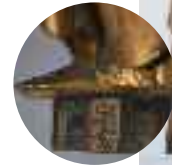
仏涅槃図

れんこうじ
蓮光寺

蔵前町3-8-11 浄土真宗本願寺派



蓮光寺の創建にかかわる詳しい記録はありませんが、大坂夏の陣の兵火で堂宇が焼失したという伝承があるほか、明治9年(1876)に編纂された南花田村・野遠村及び中村『地誌編製録』(堺市史続編)では、寛政6年(1794)に再建されたと記されています。本尊の阿弥陀如来立像の足柄には「康雲」の墨書があります。渡辺康雲は代々本願寺本山仏師として各地の末寺から依頼される阿弥陀如来立像の制作や鑑定、改作や修復に携わっていた人物です。



本尊 阿弥陀如来立像

はくおうじ
白王寺

新堀町1-27 黄檗宗

白王寺は、白河法皇(1053~1129)が高野参詣の途中、御車の車輪が壊れ、この地に三日間滞在した際に、空海の祈祷により湧き出た井戸があるのを目にして感激し、白王寺という寺号を与えたと伝えられています。



現存していた頃の白王寺

その後、江戸時代に禅宗の一派である黄檗宗の寺院として開祖隠元の弟子即非



釈迦三尊像

(1616~1671)を開山に再建、狭山藩北条

氏との関係も深く、相当規模の大きな寺院だったようです。近年まで本堂、門などが残っていましたが、現在は小堂に仏像などがまつられています。

あさかぼち
阿坂墓地

北花田町4-68



阿坂墓地は旧五箇荘村と我堂村(松原市)の共有墓地です。「字寺前」という地名も残され、かつてはこの付近に阿弥陀寺という寺があったと伝えられています。

阿坂墓地内のお堂には、像高142.3cmの阿弥陀如来坐像がまつられ、「あさかの阿弥陀さん」として五箇荘地域の人々の信仰を集めています。この像の大き

きさからも、相当な規模の寺院だったと考えられます。

また、阿坂墓地入り口のすぐ西側には、「須弥象碑」とよばれる碑があります。碑の下半分の岩状の部分は、人間の住む世界(南瞻部州)を、現在はアンテナのように見える碑の上部は、須弥山をあらわし、全体として仏教の宇宙観を立体的に表現することを意図して制作されています。

正覚寺には、この碑の完成を知らせる資料が残されており、これによれば、当時の正覚寺住職、橘堂流情の門弟有志が協力して明治26年(1893)5月に完成させたことがわかります。

日本では龍谷大学などに模型の須弥山が数点残されていますが、石で造られたものは極めてめずらしく、貴重です。



須弥象碑



阿弥陀如来坐像

五箇荘 まあかど・ くわむ探検

きつね伝説の浅香山

大和川付けかえ工事を担当した姫路藩は、浅香山の工事で苦勞している時に殿様が亡くなりました。きつねのたたりだと恐れた藩は、荒れていた浅香山稲荷神社を祀り直し、きつねの供養をしたということです。

浅香山には、きつねの嫁入り伝説もあります。松林が続く自然ゆたかな浅香山は、堺や大阪の小学生の遠足の目的地になるなど親しまれました。

1950年
「浅香山稲荷への道」
絵 陸野由松さん



げんじやま めのいけ 「源氏山」と呼ばれた布池

村相撲がさかんで、華表神社では村代表の相撲大会がおこなわれました。大豆塚の「源氏山」(岡本源蔵さん)は、明治時代の力士で、布池で魚を育てていました。布池も岡本家も「源氏山」と呼ばれるようになり、昭和の初めにも堺の料理屋さんに納めています。戦後も、フナやコイ、ウナギ、モロコ、小さなエビが、たくさんとれました。



布池跡公園の力石

三国の境は五箇荘の西

ほうちがい

方違神社などこのあたりは三国丘陵陵と言われています。長尾街道の北は摂津、南は河内、大豆塚の西は和泉でした。堺市駅前東商店街の交差点が、三国の境だったと言えるでしょう。

南北の道が広がったのは金岡連隊がつくられた時で、それまでは狭い農道だったそうです。



堺市駅前東商店街 (左は昭和60年頃)

「軍隊村」だった金岡公園周辺

昭和7年(1932)以後、軍隊が次々に移転してきました。騎兵隊(乗馬)・輜重隊(運搬)・陸軍病院などが、長尾中学・近畿中央胸部疾患センター・警察学校・金岡公園の場所にありました。兵士や従軍看護婦となった人たちもいました。阪和堺駅は、金岡連隊へ行くための金岡駅とかえられ、長尾街道を兵隊や陸軍病院への見舞いの人が通りました。陸軍病院は3000人を超す人がいた時期があったそうです。敗戦後、金岡連隊はアメリカ進駐軍基地となっていました。地元に戻され、1962年に長尾中学、1967年に金岡公園ができました。



金岡(堺市)駅から戦死者を迎える人々

大和川

柏原から北へ流れ、淀川と合流していた大和川は、洪水を繰り返しました。河内の農民の運動が幕府を動かし、宝永元年(1704)大和川が堺に付けかえられました。

大雨で一気に水量が増える大和川は時に洪水被害をもたらしましたが、ふだんは浅く、魚や貝がたくさんとれました。1960～90年代、水質汚染が問題になりましたが、大和川再生の取り組みが進み、遊べる川によみがえりつつあります。



東浅香山3・4丁は阪大産研の跡

昭和13年(1938)、村の土地が提供され、大阪帝国大学産業化学研究所がつくられました。産業界待望の施設だったようで、村に初めての水道とガスが敷かれました。跡地に公団住宅や新日鐵社宅(1961～1992)がつくられ、現在はイオンやマンション群になっています。



大阪大学70周年誌より

お百姓は力持ち

農村では米俵をかつぐ遊びが一人前の百姓になるための訓練でもありました。大正の初めには、路地や寺社に大石を置いて力比べをしました。

村に1軒のよろず屋の前に街灯がつき、野良仕事を終えた村人や近くの村の若者も集まったそうです。40貫(150kg)の石が船堂の大黒商店跡、大豆塚の布池跡の公園に保存されています。

大黒商店と大黒さん(1980年頃)



金鳳別珍

明治28年(1895)、村で初の近代工場が誕生しました。大正の初めには自家エンジンで発電して力織機を使って木綿を織りました。

昭和の初めには200人が働き、別珍の金鳳足袋が全国に売り出されました。

戦中は軍需産業に転換させられ、金鳳航空となりましたが、戦後に復活、1960年代まで製造を続けました。



金鳳別珍(工場全景)

ユーカリがシンボルの五箇荘小学校

明治6年(1873)正覚寺で泉州第七番小学の名でスタート。船堂小学・五箇荘尋常小学校・五箇荘国民学校・五箇荘小学校と名をかえてきました。

現在地に移ったのは明治44年(1911)、ロシア兵捕虜収容所の建物やユーカリなどの木をもらって始まったそうです。



運動会(昭和59年)

地面の下に眠る

奥本遺跡

戦国時代の開発は堺商人にゆかりあり？

区画整理の際に見つかりました。日本や中国からの茶碗のかけらなども出ました。台地にため池を掘ってかんがい用水を確保することで農地を開発したようです。文献に見られる五箇荘の登場時期とも一致し、中世、「自由都市堺」の商人が関係しているとの指摘もあります。



今池遺跡

交通の重要な土地 古代の農具も発見

ケーズマンション建設の際、旧狭間川（今池谷）の右岸で竪穴住居と炉の跡も見つかりました。池の周辺では川跡から5世紀から6世紀の土器が出土するのをはじめ、6世紀～7世紀の集落があったようです。さらに東側では、古代の木製馬鍬など農具が見つかり、この場所が、大阪湾につながる入江だったことや、古代の天津道（長尾街道）に近いことなどから、交通上重要な場所であることがわかります。



祭祀の場？旧狭間川跡

今池を埋めて五箇荘中学をつくった時の調査で見つかりました。川の堰に、蓋をした須恵器が並んでいました。6世紀ぐらいのもので、水の恵みを願い、災いをさける願いによるものでしょうか。

五箇荘の昔むかし

発掘・発見物語



大和川今池遺跡

難波大道跡を発見

今池水みらいセンター周辺で、古墳時代の掘立柱の建物や製鉄の跡なども発見。

難波の宮から一直線に引かれ、長尾街道と竹内街道と直角に交わっていた、難波大道の跡が見つかります。



東浅香山遺跡

イオンの1万年前は、お狩場だった！

ショッピングセンターやマンションができる前の広い場所を調査した東浅香山遺跡で、とがった石のヤジリやヤリ先、ナイフなどが見つかりました。小さな谷や川に集まる鳥やけものをとっていたようです。川のそばから文明7(1475)年7月14日と書かれた卒塔婆そとうばが見つかります。

西除川添いの「おかりば公園」は、これを記念して名づけられています。



北花田遺跡

平安時代のくしが見つかった！

北花田3丁の遺跡では、弥生土器も見つかっています。11世紀の井戸の底には、木の堅櫛たてし・人頭大の石・土器・瓦器・自然木が重ねて置かれていました。堅櫛の出土は平城京や草戸千軒につぐもので、地域の支配者一族が住んでいたのかも知れません。



訪ねよう 奈良に続く長尾街道



① 方違神社 三国丘の碑
(堺区北三国ヶ丘町)



② ぬのせ ぞういど
布忍の惣井戸
(西除川の橋のたもと西側)



⑤ 藤井寺市役所裏の道標
元は西の曲がり角にあった



③ 上田の道標ちちかみばし
(松原郵便局前)



④ あおんちや
阿保茶屋の碑
(中高野街道と長尾街道が交差するところ)



⑦ 田辺 春日神社
(田辺廃寺跡)



9 竜田道 亀の瀬溪谷



10 竜田道 峠八幡神社
(柏原市大字峠 494)



これよりひがし
11 従是東奈良県管轄の碑
(大阪府との県境を越えてすぐ)



12 関屋の町並み
(近鉄大阪線「関屋」駅東側)



6 国分 奈良街道のパネル
(国分駅前)



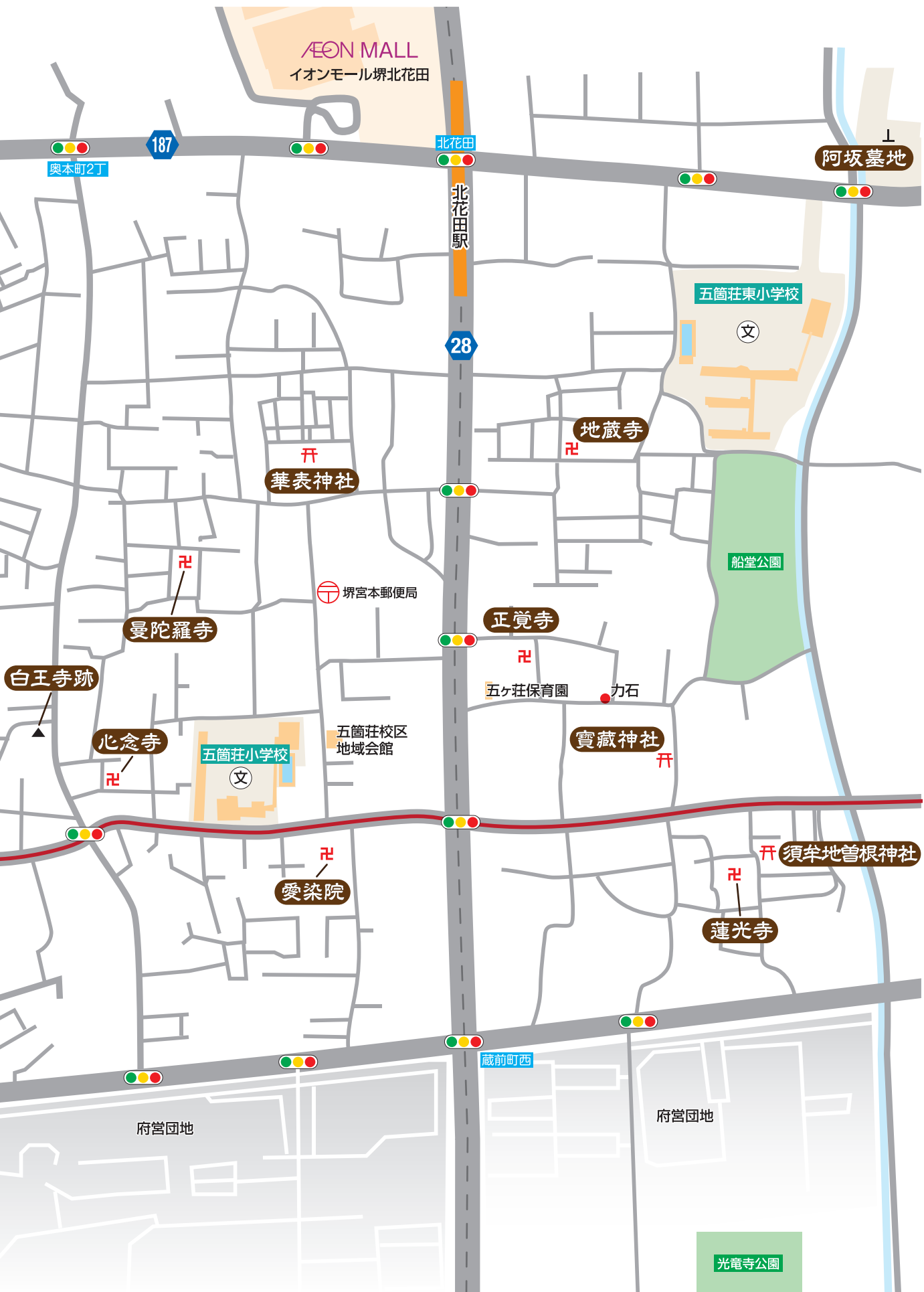
8 田尻西名阪高速道
トンネル手前の坂道



13 竹内街道と合流
(長尾神社手前の交差点)



14 長尾神社
(近鉄南大阪線「磐城」駅前)





(「1964年の五箇荘周辺」国土地理院発行K K643X)

北区では、ゆたかな地域コミュニティづくりをめざすため、まちの歴史と文化を学び、わがまちへの愛着と誇りを育む取り組みをすすめています。

この探訪マップは、平成26年度北区区民まちづくり会議の提案で実施する歴史探索事業の資料として、地元の社寺や研究者・堺市文化財課などの協力を得て作成しました。

